

政策Ⅰ 林業・木材産業の一層の産業力強化

主な施策の実施状況		主な目標指標の達成状況	
<p>①産業力の強化を図るため、川上側の高性能林業機械導入（生産性向上）を支援しているほか、川下側の合板・製材工場等の木材加工流通施設の整備（高付加価値化・競争力強化）を支援した。</p> <p>【概要】 ・高性能林業機械等導入支援 ・木材加工流通施設整備支援 [R4実績] 計10件</p>  <p>プロセッサ フォワーダ ギャングリッパー</p>	<p>②林業のスマート化に向け、木材検収システム等の導入など効果的な流通システムの構築を支援した。また、木材需給システムのさらなる利用拡大に向け、広葉樹材の流通拡大を図るため、先進地調査及び検討会を開催し、知見を集積した。</p> <p>【概要】 ・ICTを活用した木材検収システム等の整備支援 ・広葉樹材の利用拡大に向けた先進地調査及び検討会の開催</p>  <p>広葉樹利用検討会 タブレット型木材検収システム</p>	<p>◎素材生産量【年間】</p>  <p>○ 令和4年度の目標値648千m³に対して、実績値で700千m³となった。</p> <p>○ 新型コロナウイルスの影響による一時的な減少があったが、生産性の向上やウッドショックによる国産材の需要の高まりなどから、目標値を達成している。</p>	
<p>③木材需要の創出を図るため、宮城県CLT等普及推進協議会と連携し、様々な場面での建築等におけるCLT活用に向けた取組を支援した。</p> <p>【概要】 ・CLT建築等に対する支援 [R4実績] 3件 ・現場技術者育成支援</p>  <p>CLTを活用して建設された社屋 ユニット開発で生まれたCLT案内所 木造建築に係る技術者育成研修</p>	<p>④木質バイオマス利用の促進を図るため、県産の未利用間伐材等の運搬・搬出経費等を支援するとともに、関係者によるネットワーク形成を支援した。</p> <p>【概要】 ・未利用材の運搬・搬出経費補助 [R4実績] 9件 ・ネットワーク形成支援 [R4実績] 3件</p>  <p>合意形成に向けた意見交換 移動式チップパーによるチップ化</p>	<p>◎経営管理権集積計画策定市町村数【累計】</p>  <p>○ 令和4年度の目標値7市町村に対して、実績値で9市町村となった。</p> <p>○ 圏域推進会議等において、定期的に市町村と情報共有・意見交換を行ったほか、林業普及指導員による伴走支援などを実施したことなどから、目標値を達成した。</p>	
<p>⑤木材利用の促進を図るため、県産材を使った木造住宅の建築や、公共性の高い民間施設等における木質化に対し支援した。</p> <p>【概要】 ・県産材利用住宅支援 [R4実績] 487件 ・内外装の木質化の支援 [R4実績] 4件</p>  <p>県産木材を使用した住宅の内装</p>	<p>⑥森林経営管理制度の推進を図るため、圏域推進会議等を開催したほか、技術支援を行う宮城県市町村森林経営管理サポートセンターと連携し、市町村の実務を支援した。</p> <p>【概要】 ・森林経営管理制度推進会議及び圏域推進会議の開催 ・サポートセンターによる市町村向け実務研修 [R4実績] 9回 ・経営管理権集積計画の策定市町村 [R4実績] 9市町</p>  <p>圏域推進会議の開催</p>		

政策Ⅱ 森林の持つ多面的機能のさらなる発揮

主な施策の実施状況		主な目標指標の達成状況	
<p>①森林の二酸化炭素吸収機能や水源涵養機能などの公益的機能を高度に発揮させるとともに、旺盛な木材需要に応じていくため、間伐や路網整備を支援した。</p> <p>【概要】 ・間伐への支援 [R4実績] 1,139ha（補助事業による実績） ・路網整備への支援 [R4実績] 160,828m</p>  <p>間伐材の搬出 森林作業道の開設</p>	<p>②人工林伐採後の再造林を推進するとともに、造林コストの低減を図るため、伐採と造林の一貫作業システムの普及などに取り組んだ。</p> <p>【概要】 ・一貫作業システム等による再造林の普及 [R4実績] 再造林面積 197ha（補助事業による実績）</p>  <p>切株グラインダーの試用 一貫作業による機械地帯え</p>	<p>◎植栽面積【年間】</p>  <p>○ 令和3年度の目標値308haに対して実績値で289haとなった。各種補助事業の活用等により再造林等の推進を図り目標値を概ね達成（94%）している。</p> <p>○ ただし、再造林率としては20%前後と低い状況にあり、主伐で得られる収入に対して、造林や下刈り等の保育管理に要する経費が大きいことが要因と考えられる。</p>	
<p>③松くい虫被害から特別名勝「松島」地域等の重要な松林を守るため各種防除対策を推進している。また、被害跡地に松くい虫抵抗性マツを植栽し松林の再生と景観保全を図った。</p> <p>【概要】 ・伐倒駆除 [R4実績] 6,055m³（市町村単独事業は含まず） ・薬剤空中散布 [R4実績] 387ha ・薬剤地上散布 [R4実績] 89ha ・薬剤樹幹注入 [R4実績] 1,459本 ・抵抗性マツ植栽 [R4実績] 1,000本</p>  <p>薬剤地上散布 ヘリコプターによる被害材の搬出</p>	<p>④山地災害の未然防止や、令和元年東日本台風で被災した森林等の復旧のため、治山対策を計画的に推進した。</p> <p>【概要】 ・治山事業の実施 [R4実績] 74箇所 ・治山施設点検診断</p>  <p>治山施設（溪間工） 治山施設（山腹工）</p>	<p>◎松くい虫被害による枯損木量【年間】</p>  <p>○ 令和4年度の目標値11,682m³に対して実績値は9,111m³となり、目標値を達成した。</p> <p>○ 気象条件によっては再び増加に転じる恐れもあることから、引き続き市町村等と連携しながら防除対策を徹底し、更なる被害の低減を図っていく必要がある。</p>	
		<p>◎山地災害危険地区（Aランク）の治山工事着手率【累計】</p>  <p>○ 令和4年度の目標値61%に対して、実績値は47%となった。目標値の8割程度となる、40%台後半で推移している。</p>	